

答探しの青春グラフィティー

薬学科 18 期同期会（昭和 48 年卒）



平成 28 年 11 月 12 日 銀座アスター お茶の水賓館で行われました。前日までの雨も上がり、都内から富士山が望めるほどの小春日和でした。

毎年行われているこの同期会は、これまで日曜日に開催されてきました。今年は趣向を変えて土曜日の昼食会としてみました。第一線で活躍されている方も多く、この時間帯での参加が難しい方も多かったようです。例年に比較して参加者は少なく 17 名でした（昨年 32 名）。多くの人と旧交を温めることを目的とした同期会として、次回開催の反省となりました。

前期高齢者となり、やや衰えつつある脳を活性化させるため、池田 光先生を講師としてお招きし「運命学」について講演をしていただきました。

これまでの同期会は近況報告、語り合い、そして飲み会が中心でした。薬学、医学関係以外の「講演」を取り入れたのは初めての試みでした。全員メモを取りながら学生時代と同じく、真剣に聴講いたしました。

私達の青春時代—————

私達が大学を目指したのは昭和 44 年。日本の歴史の中で、唯一この年だけ東京大学と東京教育大学（現筑波大学）の入学試験が行われませんでした。東大に入学願書を出した一人ひとりに受験料返戻のお知らせと、加藤一郎東大総長からお詫びの手紙が届いたものです。当時は「偏差値」や「センター試験」



による振り分けなどなく、自由に志望する学校を受験出来た。そんな時代でした。

この年、薬学科（当時理工学部）に全国から集まった学生は多士済々、個性豊かな人の集まりでした。大学は「国家試験対策」などという無粋なものを学生に押しつけることはありませんでした。自由闊達な校風の中で勉学、研究そして他学科との交流も多く、学生時代を謳歌させていただきました。薬剤師国家試験に失敗する人が少なかったことも付け加えさせていただきます。

私達の青春時代はベトナムで多くの若者が血を流していました。ラジオの深夜番組で流れていたのが Bob Dylan の *Blowin' In the Wind* 。平和について世界中の若者が真剣に考えていた時代です。青年は歳を重ね、歌は風と共に流れてノーベル文学賞を受賞。会場では Bob Dylan の曲が流されました。当時は平和や反戦などをテーマにしたメッセージ性の強い歌が多かった時代です。

習志野キャンパスの芝生に座って、それぞれの希望を語りあったこと、お茶の水の喫茶店で人生を語ったことなど全てが楽しく、懐かしい思い出として蘇って来ました。お茶の水の風景は当時と全く変わってしまいましたが、ニコライ堂はそのままでの佇まいでした。そこでデートをした人たちも少なくなかったはずですが。青春時代は白いスケッチブックに夢を描いていました。描いては消して、消しては描いて。その繰り返しでした。

夢追う人たち——

今は、やや薄れかけた一つひとつの思い出を寄せ集め、スケッチブックに並べてみると「あの時」がそこに見えてきます。そして今も「あの時」に夢を重ねて描き続けています。自分が生きてきた道もそこに描かれています。生き方に「教科書」も「正解」もありませんが、今も皆、答え探しをしているようにみえました。スケッチブックはそれぞれの青春グラフィティー。

同じ時間を過ごした仲間たちに会うときは、過ぎ去ったはずの青春時代にいつでも戻ることが出来ます。



そしてこの素晴らしい仲間の存在が、これからの人生をより豊かにしてくれます。

来年、また元気な姿で集うことを約束して散会。手を振りながらそれぞれ家路につく姿は、教科書を小脇に抱え「じゃまた明日ね」と別れた学生時代と全く変わりませんでした。

明日からまたどんな人生を歩んでいくのか、風に吹かれて・・・答えは未だ風の中。

（大川 記）

デートの時は見上げたニコライ堂
会場からその姿を見降ろすことができる